

令和3年度  
大阪府障がい児等療育支援事業  
専門研修会

# 子どもを支援する上での 困り事に対する支援方法 ～事例から学ぶ～

2021年11月17日

児童発達支援センター うめだ・あけぼの学園 副園長

作業療法士 酒井康年

## 支援のあり方を考える

## 支援の考え方

### Standardな支援

- 第1選択
- 一般的に選択される方法
- 定型発達でも用いられる方法
- おうおうにして、その支援方法は、私たちが馴染みがあり、やりやすい

### Specialな支援

- 第2選択
- 一般的な方法ではない
- 個別性が高い
- 手間や時間、準備といったコストがかかることもある

## 私の考える基本方針

- 通常のやりかたで 一般的な方法で Standardな方法で
- 学習できる子は、その方法で問題ない
  - その方法は、大抵感覚的に理解しやすく、みんなが身につけていて、共有しやすく、省エネルギーで実施できるから
- その方法では、学習できない子に対して、少し工夫をする
  - 合理的配慮とか、特別支援の手立て
- その場合でも、**極力省エネルギー・ローコスト**で実施されることから選択していく
  - すべきことは、他にもたくさんあることが一般的であり
  - 必要なことは支援者の自己満足ではないから

## 支援の考え方

- **Standardな支援** と **Specialな支援** とを分ける
- 目の前でうまく行っていないことがあれば
- その原因は
  - Standard（多くの職員がまずは身に着けるべきこと）が整っていないのか
  - 対応が難しいSpecialな支援が必要な状況だからなのか
  - まずはそこを分ける。
- Specialな支援がスムーズに行われるには中堅以上の職員の力量が必要

- 児発の療育において、言語の獲得を進める療育とはどのような支援が必要なのか、理解が深まればと思います。
- どうしても一人遊びをしてしまう児をうまく他児と関われるようにしていきたいと思う事があります（コミュニケーション能力を高めていきたいと感じている）
- 言葉遣いが悪い子どもさんと、なかなか修正ができません。
- ご家庭でも学校でも周りが使っている為、おかしい事が伝わりません。
- また威勢を張る為、使わないとやっていけない感じもあります。
- デイの中でも、残念ですが使う子どもが多いです。
- 冷静になればどの言葉を使うべきか考えられますが、いざ他者のいる環境に出ると同じ事を繰り返してしまいます。
- この子どもさんに限らず、言葉の修正の仕方が知りたいです。

## 例) 支援の考え方

### 言葉の獲得を進める

#### Specialな支援

- コミュニケーションのチャンネルを多数用意する
- チャンネルにチューニングするのも最初は大人
- sensory communication

### 好ましくない単語を使用する

#### Specialな支援

- この状況を、本人はどのように思い、考えているのかの確認から行っていく

## 事例から考える

- 個別支援で、したいことを要求し、それができるとわかっていても、お母さんと離れることができず部屋にも入れないことが続いているお子さん（小2男の子）がいます。一旦入ってしまえば、とても楽しんで過ごすことができているため、何が原因で入れないのかがわからず困っています。
- ちなみに、お母さんがお子さんを離すことができなかつたり、お子さんの気持ちを最優先にしすぎて振り回されていたりする感じがしています。

## 切り替えの難しさ

- 相談の場面は、【今の状況が、次の状況に変化する】という【切り替えの場面】

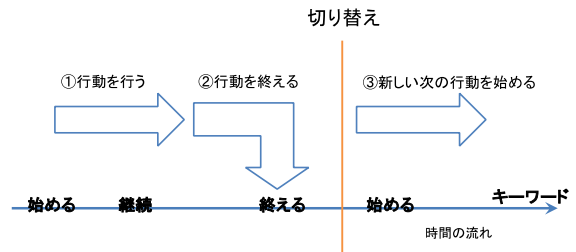
### 切り替えの場面における2つの支援

- 一般的【**未来を見せる支援**】
- うまくいかないとき
- 【**今を 終える支援**】

## 行動を終える支援

- 時間を活用する
- 対象から離れる、手を離す
- 活動を片付ける
- 対象の活動を視野から外す
- 気持ちにケリをつける

### 切り替え場面で起きていること



- 切り替えが苦手な中学生がいるが、送迎者に乗る、降りるのに時間を要する場合がある。
- 無理にうごかそうとせず、本人の気持ちに寄り添いたいが、その時の気持ちが大きいため「これ」といった支援方法がまだ分からず、スケジュールの提示やしばらく車内でおしゃべりをして過ごしています。

## やる気スイッチに対する支援

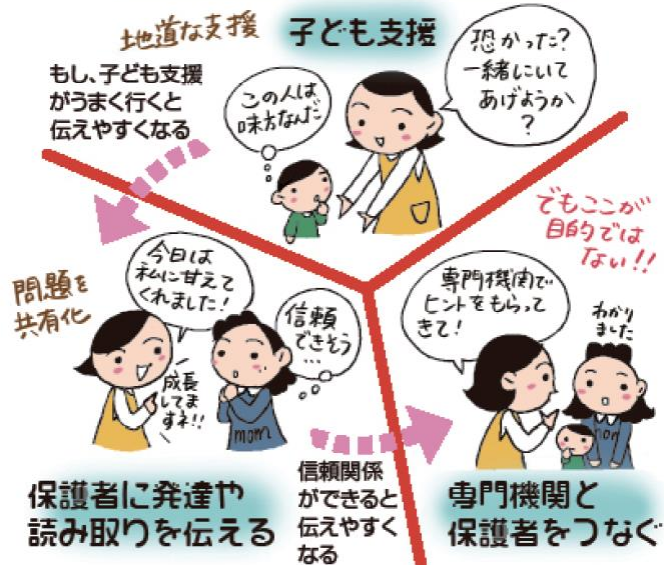
- 時間の保障
- 予告の活用
- ケリをつけるサポート
- 体が気持ちを作る 側面も
- パターンから離れる
- やる気を引き出すかけ声
- 押しても
- 引いても
- 待っていても
- 「上手に乗せる」
  - 時に、褒めておだてる
  - 時に、「エイヤー」
  - 時に、応援する

- 両親が障害を認めず、専門医の受診や検査をすべて拒否されています。
- 保護者の方と通所している児童の支援に関しての連携が上手くいかない時に、どのようにして連携をとられているのか。

# あなたが考える 家族支援とはなんですか？

- 家族指導 とはどう違いますか？
- 家族教育 とはどう違いますか？
- 家族に対する金銭的支援ではありませんね
- 家族に対するヘルパー支援でもありませんね
- 家族に対する家事支援でもありませんね
- まして、説得することでもありません

## 独立して行える3つの支援





- 問題行動のある子に対して、色んな方法でアプローチするが、どのやり方でも改善が見られない時に悩みます。
- 保護者様と相談して立てた支援計画の課題に、全く興味を示してくれず、スモールステップにして立て直してみるが全く成果を出せない時に、何をしてあげれば何が出来ようになるのか、これでいいのかと不安になります。

## リフレーミング

- 事実に対して与えている意味づけを変え、異なる見方でとらえ直すことをリフレーミングと言う
- リフレーミングによって、子どもの状況が変わるわけではない
- しかし、支援者自身に気づきや新たな視点が生まれていく
- 状況のとらえ方が変わると、そこから抽出される**課題は全くべつなもの**になっていく

## 例えば

大人に構って欲しくて  
一緒に遊んで欲しくて  
ブロックを投げる



- 他者に関心がある
- 人と一緒に遊びたいと思っている
- 人に対して要求することができる
- ブロックを持つことができる
- 物を投げるができる
- 投げる方向をある程度コントロールすることができる
- 
- 
- 
- . . . e.t.c.

## 例えば

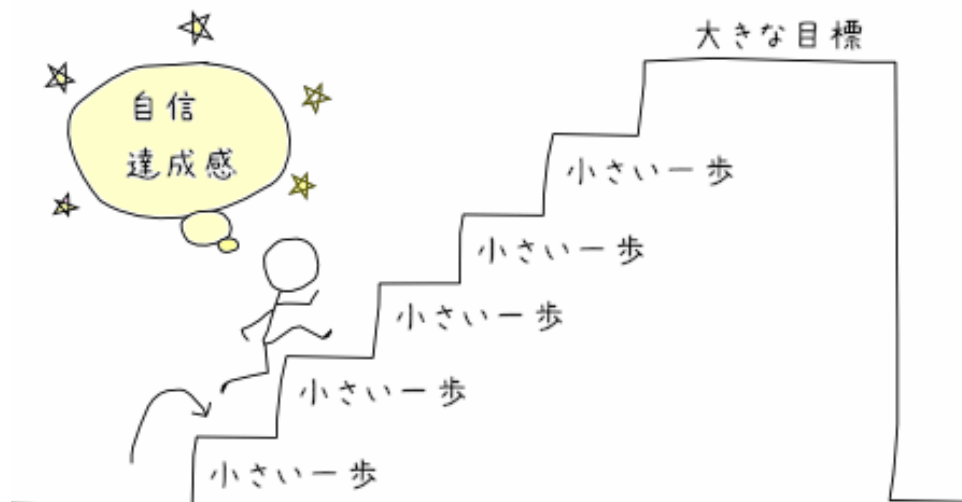
落ち着きなく  
座っていることもできず  
人の話は聞かない



- 気がついたことには積極的
- 泣いている子を見つけて助けてあげるのはいつも彼
- 10秒だったら座っていることができる
- 本人の好きな仮面ライダーの話だと、じつと私の話を聞く
- 絵本も大好きで、読み聞かせでは座って聞いている（足はブラブラしているが . . .）
- . . . e.t.c.

- 座っているのが11秒になるにはどうすれば良いか？
- 仮面ライダーの話なら、どこまで聞いていられるのか確認してみよう
- 読み聞かせのときの“足のブラブラ”どうしよう

## スモールステップ



- 気分の波が激しく、その日の気分が乗らなかったら取り組みに参加しない児童がいます。
- 話しをして切り替えができた時は、参加をし、無理な時は見学をしています。
- 他の児童もいるので、毎回時間を取って話が出来ないときもあるので、今後どのような対応をしていけばいいのか？が課題です。

# 交渉する

集団活動に参加することを拒否するA君（高等部）



## 交渉する時のコツ

- プロセスではなく、結果にコミットする
- 結果が出ることを優先する（「できる」を支援する）
- 「できた」の既成事実を蓄積する
- プロセスの質の向上は次の段階で

## 行動の支援

- 「何のために」ではなく
  - 「いつまでに」「どこで」「何をする」
  - 次に
  - 「どこで」「何をする」
- 理解の支援は次のステージで  
= そのためには機関連携。支援をつないでいくことが重要

## 行動の支援 声かけの内容

- 一般的な意味を伝えても、本人には価値がない場合がある。  
一般的な意味ではなく、本人にとっての価値に触れる内容で伝える
- 例) 手を洗うについて
  - 一般的な意味：「食事前に衛生的に」
  - 本人にとっての価値：「みんなに遅れてしまうよ」

- 本人の思いとおりにならない時に、大きな声を出したり、飛び出してしまふことがあるので、コミュニケーション支援と、スケジュールの伝え方の支援方法を学びたい。
- 思い通りにいかないことがあると、すぐに他害行為に及んでしまふ児童への対応について困っています。
- 児童がダメなこと、例えば他の児童へ危害を加える(本人は危険意識がないので故意ではない)などの危険行動をした際に、どのような関わりを持ちどのようにダメを伝えるかわからない
- 本人に認識がないのに叱ってもいいのか。

## ストレス耐性とコーピングスキル

- ストレス耐性：どの程度のストレスに耐えることができるか。個人差があるし、個人でも状況・環境・体調により、刻々と変化する
- コーピングスキル：Coping = 対処。対処できる力。技術・技能。
- ストレス耐性とコーピングスキルは、お互いに影響し合う

## 気持ちに寄り添うこと と 行動を許容すること とは別のこと

- 子どもたちの気持ちを理解する
- 子どもたちの気持ちに共感する
- 子どもたちの気持ちに寄り添う
- **これらは、とっても大事なこと**
  
- でも、**好ましくない行動を許容することは別のこと**
- 「あなたの気持ちはわかるけど、でも、やらせるわけにはいかないの、ごめんね」
- “行動が許容”されて、困るのは子どもたち
- **彼らの将来に責任を持つ**

- してはいけないと、わかっているのにしてしまう行動（人が嫌がることをわざとする。叩く真似や大きな音、声を出すなど）
- 独り言への対応

## 私がよく行う質問

- 本人はどう思っていますか？ どう言っていますか？
- そもそも、本人は、自分が行っていることを知っていますか？ 気付いていますか？
- 本人は、そのことによって、何を実現していますか？ 何を得ていますか？
  - 例：パニック、大声、なぐる、イライラする、怒る、困っている、その場にいられない、自分勝手、マイペース・・・



## 確 認

- 「やってはいけない」ということはわかっていると思います。
- 自分がやっていることが、「やってはいけない」に該当していることを知っていますか？
- 「やってはいけないこと」は、どんな理由があっても、「やってはいけない」と知っていますか？
- 「やってはいけないこと」のかわりになる行動にどんな選択肢があるのか、知っていますか？

## 習慣からの脱却

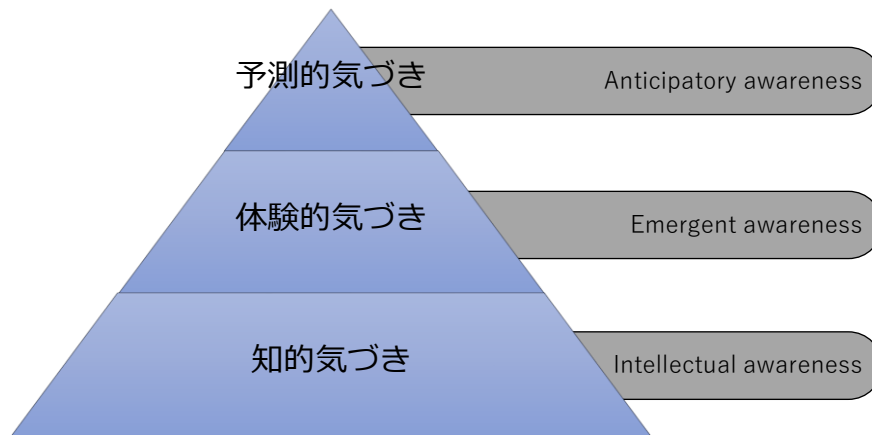
- つい、やってしまうこと
- あるパターンの中では、ついそのように行動してしまう
- そういった習慣から脱するためには
- 新たな習慣を作る必要がある
  - 古い習慣を消す取り組み
    - cf) Zeroトレランス
  - 新しい取り組みを定着・習慣化する取り組み

慣れ親しんだ習慣を変えるには  
抵抗が生まれる

新しい取り組みには抵抗感が生  
じやすい

古い習慣を消すには思い切った  
対応が必要になることも

## 自己認識の階層



中島恵子：注意障害・遂行機能障害を改善させるには, Journal of Clinical Rehabilitation Vol.26 No.3, 2017, P262  
 引用元：Crosson BC et al : Awareness and compensation in postacute head injury rehabilitation. J head trauma Rehabil 14 : 1989.

- 落ち着きのない児童がいると、周囲の児童のリズムが崩れてしまうことがある。個別対処として、落ち着きのない子の方にも職員は対応として向かうが、利用児童で差がある場合、同じ空間で活動をするのは好ましくないか？（別で活動時間を区切った方がよいのか？）
- それとも、その状況も込みで、みんな（児童）があり方を考えることが望ましいのか・・・。
- 認知が他者よりも低い児童が、一緒にいる場合、どのように活動空間を提供したらよいか判断に迷ってしまう。

## 状況によりねらうことは変えていく

- 自由活動場面
- 設定活動場面
  
- 環境を、活動を、状況を コントロールできるのは設定活動場面
  
- すべての活動で、すべてのねらいを、すべての子どもに同時に達成することは不可能
- どの活動で、どのねらいを、どの子にねらっていくのか、整理する